

県外視察報告書

松山郁子

1 美祢市立美東中学校

昭和35年に当時の美東町内の赤郷・大田・綾木・真長田の4中学校が統合して発足し、平成20年3月、市町合併により現在の校名に変更された。平成26年4月、学校運営協議会が設置された後、平成28年8月、中学校に加え、美東中学校区の4小学校の運営協議会で構成される美東地域拡大学校運営協議会（みとうこぶっちゃんネット）が設置された。

「まなび」（家庭学習の習慣化等）、「こころ」（豊かな心を育む）、「そだち」（生活習慣を身に付ける）の3つのプロジェクトを重点取組事項とし、運営されている。全体会も定期的に実施されるが、各プロジェクトにおいて積極的に会議が実施されている。

地域や家庭と連携をしながら、地域に関する学習や地域行事への参加などを実施しているが、部活動の大会や学校のスケジュールを検討しつつ、年間スケジュールが作成されていた。

同協議会の成果として、小中連携、地域連携の基盤ができ、動き始めたこと、地域の特色を生かした教育が、9年間のつながりの中でできつつあること、生徒の自己肯定感が高まっていることが紹介されていた。

宮崎のような地方においては、運営協議会の設置に際し、人材の不足が大きな問題であり、今回のように、中学校区を基本とし、小中学校が連携して運営協議会を設置することも対策として必要ではないかと考えた。実態のある運営協議会の運営方法の参考にもなる内容であった。

2 山口市立白石中学校分教室

平成27年4月1日、不登校生徒のための「新たな学びの場」（学習面・生活面）の設置及び高校進学に向けた不登校生徒の「学力向上」を目的として開設された。山口市教育支援センター「あすなる第2教室」と施設を共有している。

あすなる教室は、引きこもり状態を解消し、在籍校への学校復帰を目指すことを目的としていることから、転校の必要はなく、学習評価や進路指導等は在籍校の教員が行うが、白石中分教室は、不登校生徒のための新たな学びの場とするため、在籍校から白石中学校へ転校し、分教室に配置された担任教員が教科の授業及び学習評価、進路指導を行う。原則、分教室と本校の教員がすべての教科の指導を行い、生徒は白石中学校を卒業することとなる。

一時的な対応でなく、高校進学を目指した、継続的かつ全般的な指導が行われ、音楽、体育なども指導がなされており、安定した学校生活を再度スタートさせることに非常に有効な制度であると感じた。

継続的に安定した指導を行うためには、担任教員の配置人数、在籍生徒数の安定が必要であるため、保護者や生徒への積極的な案内が必要であるとし、教育相談会での説明だけでなく、12月半ばに実施される山口市教育委員会での案内を積極的に行う等の工夫がなされていた。

本校との連携に関し、開設当初は、形式的なものにとどまることもあったが、現在は、本校の学年会議（月 1 回）に合わせ、分教室運営協議会を実施し、校長・教頭・教務主任・分教室教員 3 名で、分教室に関するすべてのことを協議し共通理解をはかり、分教室主任が本校の運営委員会（月 1 回）及び生徒指導部会（毎週 1 回）に参加している。

生徒間においても、本校の行事への参加、技術・家庭科の授業を本校教室で受けるなど、交流を行い、大勢の集団に慣れさせる工夫もなされていた。

生徒の個性にあった分教室の存在は、学習意欲は有しながらも不登校で悩む生徒の進路の選択の幅を広げるだけでなく、保護者の大きな支えになっていると感じた。

以上